

鶴岡市議会議員〔無会派・総務常任委員会〕

# 田中ひろし 市政報告

2013  
JAN.



＜連絡先＞ 事務所 〒 997-0036 山形県鶴岡市家中新町 13-35 メール：officefon@gmail.com  
TEL 0235-22-0068 FAX 0235-22-0098  
議会事務局 〒 997-8601 山形県鶴岡市馬場町 9-25 鶴岡市役所 2階  
TEL 0235-25-2111 FAX 0235-24-9071

去る9月13日、全国市議会議長会法制参事の廣瀬和彦氏をお迎えして、【議会のあり方と議員定数】を考える市民学習会を開催しました。市議会議員全員で主催したかったのですが、新政クラブ21名と政友公明クラブ3名のご参加は得られず、有志10名での主催となりました。

鶴岡市議会の議会改革特別委員会では、来年秋の改選での議員定数をどう設定するか議論されており、9月28日には公聴会を開催します。

しかし、地域代表+女性団体代表+青年会議所代表+市議OBという顔ぶれでは、ほとんどが高齢者、女性は2名だけ。「市民の皆さんの意見を聴くため」という目的には不足ではないでしょうか。市民に適切な情報を開示し、共に考えていく姿勢は、少し時間はかかるようでも結局「急がば回れ」になると確信しています。



現在、鶴岡市議会は34名で構成されています。東北でもっとも広い市域に暮らす、4万8千世帯・13万7千人（8月末現在）の声をきちんと反映するために、常により良い議会のあり方を模索していかねばなりません。議会改革は非常に大切ですが、「定数を減らして経費を削減すれば万事OK!」というほど単純な問題ではないことにご注意を!!!

### ▼議員定数の決め方

平成15年までは「人口比例方式」を採用。住民の数に比例して多くなるであろう意見を議会に反映させるために、議員も多くしていた。現在は、首長と議員が提案できる議員定数条例で自由に決められる。

## 鶴岡市にとって最適な議員定数とは。

### ▼議員定数を考える要件

(1) 会議体としての議会の能率的な運営。極端に多くも少なくもない数 (2) 多数の住民が推す優れた人材の選出。定数が少な過ぎると、優秀な人材でも選挙に通れない可能性が高まる (3) 地方公共団体の組織全体との均衡

### ▼定数を考える上で留意すべき点

(1) 歳出に占める議会費の割合。鶴岡市は0.6%。地方分権の流れの中で全国的に自治体の権限が増えているのに、議会費が下がっていく傾向はおかしい。(2) 定数減少にかかる監視機能への影響 (3) 面積および人口にかかる多様な住民意見の議会への反映の可否。合併によって、議員一人当たり10.6平方km、5659人を代表することになった。

### ▼定数の基準

(1) 常任委員会数方式。1委員会あたり7~8人が一般的。可否同数を避けるため、偶数が適当。鶴岡市は総務・厚生文教・市民生活・産業建設の4委員会制。もっと深く深い議論のためには、委員会が多いほうが良い。(2) 鶴岡市くらいの人口規模だと、2900~5900人に1人が一般的。(3) 議会費固定化方式。「二元代表制」の意味を考えれば、歳出の1%を議会費に充てても良いのではないかと。

その他、「住民自治会や小学校区ごとに1人」方式などもあり得る。広大な鶴岡市では議員一人当たりの面積も重要な要素になる。

### 【目次】

- ・ 鶴岡市にとって最適な議員定数とは
- ・ 9月定例会・一般質問報告
- ・ 12月定例会・一般質問報告
- ・ 視察報告：長野県「茅野市民館」
- ・ 森林文化都市への想いを新たに

平成24年度9月定例会、12月定例会を振り返ります。なお、鶴岡市議会ホームページから、本会議の映像や会議録をご覧ください。

→ <http://www.city.tsuruoka.yamagata.jp/gikai/>

## H24年9月定例会・一般質問

9月定例会の中で、9月11日に一般質問を行いました。以下、議会だよりに掲載される質疑要旨(市当局による修正済み)と、補足説明です。

### ◆テーマ

1. 新文化会館について
2. 地防災・安全へのIT活用について
3. 加茂水族館の経営について

### 新文化会館「市民会議」創設は？

■議員 世界的建築家・妹島和世氏を中心とする設計チームが新文化会館を手がけることに決定。氏の目指す「公園のような建築」は、市民の交流拠点となる文化会館にこそふさわしい。管理運営計画の策定工程は、世代やジャンルを越えて議論するための「市民会議」を創設しては。

■教育部長 10月に管理運営計画策定委員会の委員公募を実施予定。全国公立文化施設協会の助言も仰ぎながら検討していきたい。説明会や意見交換会、設計ワークショップなどを開催予定だが、市民会議やフォーラム開催については考えていない。

(補足説明) これまでの文化会館は貸しホールに過ぎませんでしたが、新文化会館には文化発信と交流の拠点になるための様々な機能が求められます。ハードとソフトがバランス良く両輪として働くために「管理運営計画」は非常に重要。策定委員の公募も良い方向でしょう。説明会や意見交換会、市民ワークショップの開催については予定されているようですが、果たして「対話」の場として充分なのか。市民と市民、市民と設計者の対話をどうファシリテートしていくのか。市民同士が厚い議論を尽くした上で、設計者と対峙すべきだと思います。「新文化会

館を考える市民会議」のような組織を設立し、市民への啓発を兼ねて、設立記念フォーラムを開催。建設から導入、企画や運営など、ホールの流れを一覧できる機会を提供することを提案しました。

### 防災・安全情報の迅速な提供を？

■議員 市内の学校での一斉メール配信の導入状況は。消防本部からの災害情報提供は。

■教育長 現在は地域防災無線やメールを活用している学校もあるが、文書配布と電話連絡網がほとんどである。迅速な情報提供と情報共有のためメール配信も有効な手段だと認識している。

消防長 テレホンガイドと消防本部ホームページで、即時に災害情報を提供している。

(補足説明) 学校での一斉メール配信システムは保護者からのニーズが高く、既に導入している学校もあります。しかし、システムの検討や導入・運用を学校現場に任せるのはあまりにも負担が大きいため、市として、ガイドラインと環境を整えた上で、各校の検討に委ねるべきではないか、と提言しました。

また、火災などの防災・安全情報が「災害情報テレホンサービス」25-0119で市民に提供されていますが、多くのアクセスがあると繋がりにくい欠点があります。同じ情報がホームページにも掲載されますが、ツイッターなどを活用すれば、情報がより速やかに市民に伝わるよう改善できると指摘しました。

### 加茂水族館の経理と事務負担は？

■議員 現場の事務負担を軽減し、更なる躍進を支援する方策は。

■商工観光部長 指定管理者である開発公社では一般財団法人への移行に向けて経理の明確化が急務だが、市と連携して事務負担を軽減する改善も行っている。現場の自由な発想や柔軟性を妨げず、職員が本来の業務に注力できるよう見直し改善を重ねたい。

**(補足説明)** マスコミの注目度も高く、全国区の人気を誇る加茂水族館。経理を明確化しようとする余り、その躍進を支えてきた原動力の一つである「経営の自由度」を縛っては、現場がのびのび活動できなくなります。



## H24年12月定例会・一般質問

12月定例会の中で、12月10日に一般質問を行いました。以下、議会だよりに掲載される質問要旨（市当局による修正済み）と、補足説明です。

### ◆テーマ

1. 小中学生の自転車用ヘルメットについて
2. 地域力・住民力による除雪について
3. 移住・定住促進策について

### 小中学生の自転車用ヘルメットは？

■議員 本市の小中学生が関係した自転車事故の状況は。ヘルメット着用についての見解は。

■教育長 平成23年度の児童生徒の交通事故37件中、26件が自転車関連。頭部を負傷した事故が6件。もしかかクラブや交通安全教室による注意喚起だけでなく、ヘルメット着用についても、校長会との意見交換やPTAとの協力も含めて働きかけたい。

**(補足説明)** 道路交通法では13才未満の子どもには自転車用ヘルメットを被らせる努力義務が明記されています。大人に比べて頭部が重い子ども達は、自転車で転倒すると頭から落ちる可能性が高い。鶴岡市では、ヘルメット着用を義務づけていない小中学校が数多くありますが、全校に導入を働きかけるべきと提言しました。

### 地域力・住民力による除雪へ

■議員 各地域で昨冬導入した小型除雪機による除雪への支援は。

■市民部長 除雪機の有効利用と体制づくりの推進のため、今年度は除雪機1台につき3万円を上限とする補助金を交付する。ホームページの利用など活用事例の情報共有に努める。

**(補足説明)** 鶴岡市では、除雪費用が不足して数億円の補正予算を組む事態が毎年のように続いています。市で運行する除雪車と、個人で雪かきする中間の「共助」を充実することが急務です。また、除雪という共通の地域課題の解決を目指す中で、地域コミュニティを活性化する効果も期待できるでしょう。わが第三学区でも朝陽五小での事例を参考に、PTAでの除雪活動を検討中です。

### 移住・定住促進策：「市民」制度とつるおかランドバンクについて

■議員 鶴岡ファンと鶴岡が結びつきを深めるための「市民」制度の創設は。つるおかランドバンクに期待する役割と効果は。

■企画部長 全国の取り組みなど、制度や効果等を調査研究したい。

■建設部長 民間ならではのきめ細かな空き家バンク事業や、空き家を魅力ある商店や交流施設に改修する空き家コーディネート事業で、移住・定住促進や若者の定着につなげていきたい。

**(補足説明)** 人口減少と少子高齢化は鶴岡市でも顕著。移住定住促進が大きな課題となっています。岩手県遠野市の「でくらす遠野」のような、鶴岡市外に暮らす鶴岡ファンとの絆を深めていくための制度づくりを提言。「空き家が多くて、大変だから…」という消極的な空き家対策だけでなく、コンバージョンによって新しい風を吹かせる積極的な姿勢によって魅力ある街にしていくことが、移住定住促進にも繋がっていくと指摘しました。

## 視察報告 ～長野県・茅野市

■日時：2012年6月18日

■視察テーマ：公立文化施設と市民協働のあり方

茅野市民館は市民主体・市民参画で作られたホールとして、全国のお手本となっています。

6年間に渡る建設プロセスを綴った「茅野市民館ものがたり」も出版されています。



文化複合施設・茅野市民館は2005年10月に開館。JR茅野駅東口に隣接しています。ホール機能・美術館機能・コミュニティ機能を兼ね備えた施設です。1999年、市民による「茅野市の地域文化を創る会」が発足し、2005年の開館以降も「NPO法人サポートC」として、指定管理者である「株式会社 地域文化創造」とパートナーシップを組み、茅野市民館を拠点とした地域の文化活動や市民の交流をサポートしておられます。



演劇・音楽・展示などあらゆる用途が可能なマルチホール、ホール舞台と同じ大きさのリハーサル室アトリエ、クラシック音楽専用300席のコンサートホール、茅野市美術館も併設されています。

新しい鶴岡市文化会館は、妹島和世さんという世界的建築家を設計者に迎え、広く注目されるはず。これまでのような単なる貸し館ではなく、世界中からの注目に恥じないような運営が必須です。行政と市民のパートナーシップによって、鶴岡ならではの企画・管理運営体制を築いていきたいものです。（視察報告書より抜粋）

ブログ ツイッター フェイスブック  
BLOG / twitter / Facebook での情報発信も！

<http://tanaka-tsuruoka.net/>  
[http://twitter.com/tanaka\\_hiroshi](http://twitter.com/tanaka_hiroshi)  
<http://www.facebook.com/tanaka.officefon>

## コラム 《森林文化都市》への誓いを新たに。

《森林文化》を提唱した鶴岡市名誉市民・北村昌美先生ご逝去の報を聞き、《森林文化都市》への誓いを新たにしました。

兵庫県のご出身。遠く鶴岡に巨木の如くドッシリと根を張り、鶴岡市が《森林文化都市》たるべく長年に渡ってご指導くださいました。今年5月、先生の郷里・篠山市と鶴岡市が災害応援協定を結んだのも、先生のご縁あればこそ。

振り返れば2009年12月、僕が市議として初めて行なう一般質問のテーマとして《森林文化都市》を選びました。産業や福祉、教育など、総合的に市政の方向を問う上で格好の視点だと考えたからです。

そして昨年、埼玉県飯能市で開催された【森林文化都市サミット】では、鶴岡市・飯能市・群馬県沼田市の3市長が共同で《森林文化都市サミット共同宣言2011》を発表しました。

宣言文の「市域の七割以上を占める広大な森林を守り、森林文化の継承・発信を通じて、住み良いまちづくりに全力で取り組む」という決意を、鶴岡市でも具現化していきたい。

3.11以降、《森林文化》の重要性はますます高まっています。山の森林から、川や地下水が田畑を潤し、海に注いで水産資源も育む。そんな鶴岡ならではの森里海連環を生かした産業振興や教育・福祉、エネルギーシフトをしっかりとデザインしていかねば！

北村先生、鶴岡市が真の《森林文化都市》になるその日まで、どうか見守っててください。合掌。

鶴岡市議会議員 田中 宏

## 主な活動報告 ～ブログ記事より

《2012年下半期》

- ◆七夕、気鋭の設計者たちと出会う。
- ◆報告：2012年6月定例会での一般質問。
- ◆《森林文化都市》への誓いを新たに。
- ◆本日、一般質問です。
- ◆鶴岡市に議員34人は多すぎる？
- ◆鶴岡市にとって最適な議員定数とは。
- ◆数世代後の子ども達に、

どんな鶴岡を渡したいのか？

…ほか